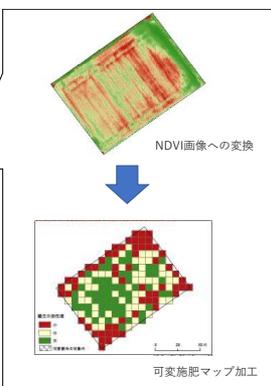
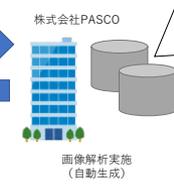


取組概要

農業分野における労働費以外の生産費削減に向け、肥料削減に効果がある可変施肥マップ及び生育情報提供をクラウド活用により実施



情報公開システムを介して農業者が計測したUAV画像を自動解析により情報提供することが可能



農業情報提供サービス概要

最適な時期での情報取得が双方で可能

背景

農業情報の利用における観点

- ・ロボット農機の導入により、労働力削減は大幅な改善が見込める。
- ・生産性の向上については、可変施肥、刈取時期決定、病虫害予防の最適な時期での情報取得が必要。

【課題】

- ・農業者が自身でUAV計測を行うには機材コスト、作業時間が不足
- ・企業がUAV計測を行うには、コロナ禍での越境が困難で、地域内に事業者が必要

取得されるデータのオープンデータ化に対するニーズ

- ・農業委員会での土地生産力評価の指標
- ・農業者が購入したい農地の取引価格や営農作業の根拠

情報取得精度の観点

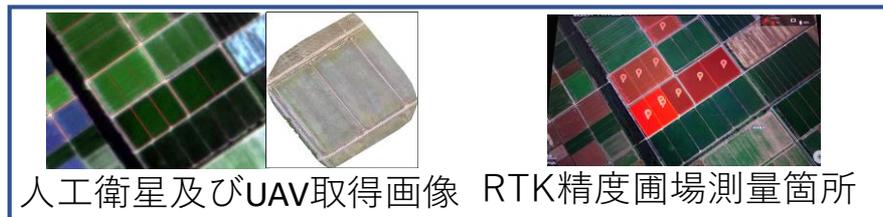
- ・人工衛星、UAV計測による誤差(数m)を独自基地局により補正し、高精度の位置情報(誤差±5cm)で提供

実証結果

(1) 現地情報の取得

- 人工衛星及びUAVで現地情報を取得
- 圃場区画をRTK精度で取得

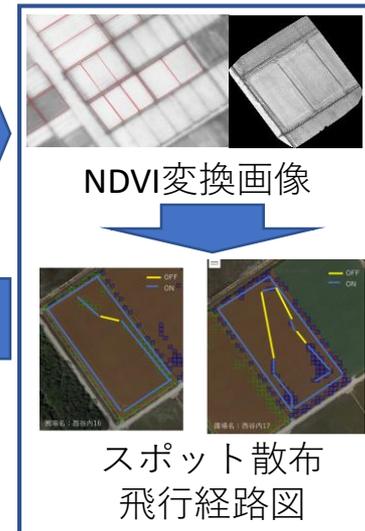
(1) 現地情報の取得



(2) 情報解析

- データをクラウドシステムに送付すると、協力企業が自動解析して解析データを返送

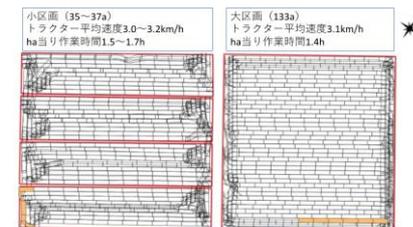
(2) 情報解析



(3) 情報の利用及びオープンデータ化

- 解析データをクラウドシステムからダウンロードして可変散布を実施
- 生育状況の確認
- 農機作業時間シミュレーション

(3) 情報の利用及びオープンデータ化



ビジネスモデル化

サービス提供価格

1,000円/1ha/回を想定

今後提供予定のサービス

- VTOL型UAVによる広域センシング
- タンパク値マップによる圃場区画内分別刈取